

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本方針をもとに、年度ごとに施設および各館の目標を地域との関わりも含め掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内の目のつきやすい場所に掲示し、日頃より申し送りやミーティング等で振り返りながら、共通意識を持って取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念は、施設内の見やすい場所に掲げ、機会あるごとに家族には伝えている。地域の方々には、運営推進会議で施設の様子を伝え、理解を得ている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	お祭りや餅つき等行事あるごとに声をかけていただき、積極的に参加し交流を深めている。運営推進会議の中では、地域の一員として貢献出来ることはないか話題にし意見交換しながら取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員と一緒にいき、評価結果には前向きに検討・改善し、サービスの質の向上につながるよう取り組んでいる。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、市担当者や家族の方の出席も増え、より多くの方々に情報提供し、会議の意義を理解していただきながら、様々な意見が出され日々のケアの中に生かしている。また、自己評価・外部評価の報告も行い、サービスの質の向上につなげている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年度より、市担当者の方も出席されアドバイス・情報提供をいただいている。市には、自己評価・外部評価を報告している。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	十和田市社会福祉協議会に依頼し、地域権利擁護事業の内部研修を設けた。現在は数名の方が利用されているが、そのことにより日常的にも職員は理解を深め支援をしている。	○ 今後も、勉強会を通じて理解を深めていきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法第2条に定める従事者として、職員全員が共通の認識を持ち、日々のケアの中でお互いに意識し合い、虐待につながらないように防止に努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている		
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は最小限に抑え、入居者の混乱を招かないように配慮している。また、職員は普段より他館との交流を持ちなじみの関係作りに心がけている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修とも年度初めに計画を立て取組んでいる。参加者は報告書を作成し職員全員が共有できるようにしている。	○	年間計画を作成したが、全員が受講するには至らなかったため、来年度は計画を立て一人でも多くの職員が参加出来るように取組んでいきたい。
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入、研修会等に参加し交流を持つようにしている。他グループホームの行事訪問や当施設の行事に招待するなど交流を持ち、お互いに情報交換をしながらサービスの質の向上に努めている。	○	回数は少ないが、来年度は徐々に増やし交流を持っていきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会を設けたり、訪問時には職員一人ひとりに声をかけていただき、職員が話しやすいような雰囲気作りに配慮いただいている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者がほぼ毎日訪れ、現場の状況や勤務状態の把握に努めている、また、年に1回の健康診断により職員の健康管理を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談する場を設け、本人・家族の生活状況や思いを理解・評価し受け止めるようにしている。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の状況の把握に努め、ケアマネジャー、介護職員、関係機関も含めて十分な話し合いを持ち対応している。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	生活のペース・習慣を大切に本人の意志を尊重し無理なく生活になじんでいけるように家族とも相談しながら、職員間の情報交換を密に取り支援している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の家事仕事や、畑作り等で”できること””得意なこと”を見つけお互いに教えあったり助け合いながら、楽しみを見つけ生活している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ゆっくりとお話しできる時間を作っていただき、日常の様子を伝えながら、本人・家族の思いを受け止め、安心して暮らしていただけるように相談しながら進めている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時やホーム便りで、日常の様子を伝えたりまた、遠方の方には電話や手紙・写真を送っている。また、家族の行事への参加を促したり、外出等の支援を行い関係作りに努めている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係者の協力を得ながら定期的な集会に出席したり、なじみの店や美容院、近所の知り合いの家に出かけたりと、出来る限り本人の希望に添うように努めている。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が介入し利用者同士が助け合う場作りをしたり、“出来ないこと”への他者の強い視線が向かないように気配りし、より良い関係作りにつながるように努めている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所してからも困ったことがあればいつでも相談に応じる事を伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の情報も含めながら、普段の会話の中でさりげなく聞き取りしたり、聞き取り困難な方は日常の言葉・様子に目を向け、本人の視点に立ってケア出来るように、職員間で話し合いを持ちながら意向の把握に努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族および関係者から情報収集を行い、職員間で共有し、日々のケアに取り組んでいる。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の様子を活動記録・健康管理表に記録し、申し送りやミーティング等で情報収集・交換・伝達を行い把握するようにしている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聞き取り、ケアマネジャー、介護職員、関係者と意見交換を行い介護計画を作成している。また、今年度は看護師による長谷川式スケールを行い計画に反映させている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行っているほか、目標の達成状況や変化により、本人・家族・関係者を交えて随時計画の見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の活動の様子や健康状態、気づき等を個々の活動記録および健康管理表に記録し、申し送りやミーティング等で報告、共有し日々のケアや計画の見直しに活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師の配置により、利用者の日常的な健康管理や急変時の対応の充実を図っている。家族との相談に応じて、受診介助や買い物、外出等の支援も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内会長、民生委員、老人クラブ、派出所の方へ無断外出の救護をお願いし、利用者が安心して生活出来るようにしている。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて各関係機関と連絡を取りサービスを利用できるようにしている。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今年度は地域包括支援センターとの関わりはなかった。	○	必要があれば協力・連携を取っていきたい。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の希望を重視し決めている。当施設は医療機関系列のため、24時間体制で医療および助言が受けられるようになっていく。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する理解があり、利用者一人一人の事を考え対応してもらっている。職員も都度、適切な指示・助言を受けている。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が配置され主治医との連携を取りながら、日常の健康管理や相談を行っている。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、医師より家族および職員に治療の方針が示され、早期退院に向けた話し合いも持たれる。医療機関への情報提供や安心して治療が受けられるように家族と相談し、お互いの協力体制を取っている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りによる指針を整備しており、家族にも説明し理解を頂いている。重度化した場合の方向性について主治医を交え話し合いを行うことを確認している。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・家族の希望に添うよう主治医と話し合いを行い、最後まで安心して過ごすことが出来るように職員全員が真摯に受け止め取り組んでいる。	○	今後も職員全員が終末期についての心構えを持ち、対応についてもっと理解を深めるようにしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、個々の出来る力を見極めながら職員と共に行っている。食事の際にはBGMを流し落ち着いた雰囲気の中でゆっくりと食事が楽しめるようにしている。		
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好きな飲み物を用意し提供している。また、希望に応じて自室に冷蔵庫を置いておやつを入れている方もあり、本人の希望を重視し家族とも相談しながら日常的に楽しめるよう工夫し支援している。		
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを記録し把握している。尿便意の分からない方に対しては排泄パターンの観察や本人の様子を見てトイレの声かけ・誘導を行っている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の健康状態に合わせて入浴を楽しんで頂いている。入浴拒否が見られる際は、後日に変更し受け入れの良いときに実行するようにしている。		
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日常の様子を観察し、疲れている様子が見られたときには声かけし休んでいただいている。また、夜間不安を感じ眠れない方へは、付き添い安心して眠りにつけるよう対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力に合わせて日常生活での役割ごとを決め、生活に張りを感じていただけるよう取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方については、家族同意のうえ少額の金銭を所持して頂いている。管理できない方については、家族同意のうえ施設で預かり管理している。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に添って買い物や散歩、外出の支援をしている他、気分転換出来るよう施設の中庭を開放し利用していただいている。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行ってみたい場所の聞き取りをし外出の計画を立てている。その中でも、サクランボ狩り・ブドウ狩り等はとても喜ばれるため収穫の頃には予約を入れ、毎年楽しめるようにしている。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい、手紙を送りたいと希望が合っても自分では出来ないという方には、本人に変わり電話の取り次ぎをしたり、手紙の代筆をする等の援助を行っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の面会や来客の際には職員一人ひとりが明るい笑顔で挨拶し出迎えている。ゆっくりとくつろげる場所を提供し、お茶を用意する等のおもてなしをしている。帰られる際は、利用者と共に玄関までお見送りしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動障害に対する基本的対応を職員は理解し受け止めながら、日頃よりミーティング等でも話し合い、職員一人一人が自覚し身体拘束のないケアに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りが十分に対応できない場合に限り施錠を行っている。家族の方へも説明し理解を得ている。	○	認知症による行動障害が起こる原因を考え、事前対応に心がけ取り組んでいく。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中・夜間ともに全体を見渡せるホールに職員が配置しているような体制を作り、利用者の行動・様子に目をいきとどかせ見守りするようにしている。居室で過ごされる事の多い方に対しては、適宜訪室し安全確認をしている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ミーティング等で話し合い、利用者の状況に合わせて注意の必要な物品等は目につかないところへ保管している。また、その時々状況の変化に応じて保管・管理方法を検討し早期対応に取り組んでいる。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人一人の状況に常に目を向け変化に対して早期に検討・対応に努めている。報告書を記録し職員全員が周知し、事故に対しての認識と事故防止に向け取り組んでいる。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応マニュアルを作り、日々の中で振り返りながら対応できるようにしている。また施設内での応急手当や救命救急の勉強会も実施している。	○	今後も年間研修計画に掲げ定期的に勉強会を行っていきたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、日中および夜間を想定した避難訓練を実施している。また、非常時用の必要物品を準備しすぐに持ち出せるように常備している。	○	運営推進会議等で地域の方の協力を働きかけて行く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日頃より家族には日常の様子を話し、生活の中で起こりえるリスクについて説明し、理解を頂いている。状態の変化が見られた時には、都度家族に報告し、出来るだけ本人の意向が尊重されるよう話し合い対応策を検討している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の状態・様子には常に注意を払い普段と様子が違うなど体調に異変が見られた場合には状況等を記録し、申し送り時にその旨を伝達し、職員全員が把握・対応できるようにしている。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の名前や内容を記載したカードを作り、薬をセットしている。飲み忘れや誤薬のないよう服薬カードを確認しながら内服薬の援助を行っている。薬の変更時は目的や用法について伝達ノートに記入し申し送っている。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給の機会を多く取り入れ摂取していただいている他、身体を動かしていただくため体操や踊りなどを盛り込み一緒に行っている。食事や排泄状況を確認すると共に、便秘気味の方には腹部を温めたりマッサージをしたりして自然排便が出来るよう対処している。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声かけをし進めている。歯磨き動作が分からない方は一緒に付き添い動作指導および介助にて行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリーについて栄養士の方からアドバイスを頂き、参考にしながら献立を考えている。また、毎日の食事・水分摂取状況を記録し把握できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防対策のマニュアルを作成し、職員全員が周知し予防・対応に努めている。利用者や家族の方にも理解していただき、手洗い・うがい・マスクの着用に協力いただいている。インフルエンザの予防接種は、利用者・職員全員が行っている。		
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の購入は賞味期限を確認し、新鮮な物を選んでいる。食材はたくさん買い込みせず数日程度の量にとどめている。台所・調理用具等は毎日消毒し清潔にしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	純和風作りの建物で、玄関先には花や観葉植物を置いている。誰もが親しみを持ち出入りし、立ち寄れるように外門は常に開放している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所・食堂・居間は続きの広い空間になっており調理時の音が聞こえ家庭的な雰囲気であふれている。外からの日差しも入り、所内からは自然の景色も眺めることが出来、居心地よく過ごせる環境となっている。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間にはゆったりと座れるソファがあり団欒を楽しめるスペースがある。施設の外には広い中庭があり、数カ所にベンチを設置し、気の合う方同士そこで散歩や会話を楽しむことが出来る場所が確保されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	利用者が安心して過ごすことが出来るよう入居 前から使っていた家具や愛用していた物を持ち込 みしていただいている。その他に施設で手作りし た物や庭に咲く花を室内に飾り気持ちを和らげら れるよう工夫している。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	日中利用者が集まり過ごす場所には、空気清浄 機が設置されているほか、掃除の時など適宜窓を 開放し喚起を行っている。空調については身体 に影響を及ぼさないよう出来るだけ自然の空気や 日差しを取り入れ湿温時計を見ながら温度調整を 行っている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	居室・廊下・トイレ・浴室等施設内全体に最大 限に手すりが設置され、歩行の安全を図ってい る。個々の身体機能に合わせて安全な生活が出来 るよう環境の工夫を行っている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	利用者の混乱や失敗について様子を観察し、何 が要因となっているかを探り、職員間で対応策を 話し合い速やかに改善につなげる為の工夫をして いる。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	畑があり、利用者と共に野菜の種まきや草取 り・収穫をしている。また、中庭は散歩や憩いの 場所として活用したり、様々な行事を楽しめる場 所にもなっている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年度は、地域の方々とのふれあいを目標に積極的に地域行事に参加し、はなは行事への参加もして下さる等交流を多く持つことができました。また、看護職員に24時間連絡ができる体制を取り、主治医との連携を取りながら健康管理を行い、利用者・職員共に日々安心して過ごすことができています。